

MM HEAD LINE

Photo/Y.IGARASHI 五十嵐豊



浸透力と防水性は強力な撥水性も高いため、電装コネクタ部分にスプレーしておけば、外部から水分が浸入しても通電は確保される。

我々サンデーメカニックが、パーツクリナーと同様に多用するのが浸透潤滑スプレーである。固着して緩みづらいボルトに噴いたり、パーツ同士の接触面に用いたり、スチールワールでの錆落としに併用したりと、とにかく頻りに使っている。

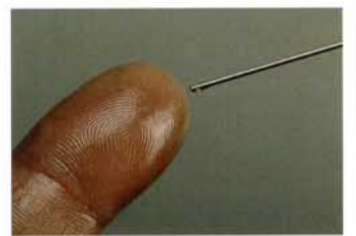
高性能オイルとケミカルでモータースポーツ界からストリートまで多くのユーザーから支持されているニューテックの新製品「NC-101オスモシル」は、最高の性能を盛り込んだ多目的浸透潤滑剤である。エンジンオイルに鉱物性、化学合成というベースオイルの違いがあるのと同じく、浸透潤滑剤にも値段や性能の違いがある。中でもオスモシルの最大の特徴は「フッ素化不活性液体」を使用している点。フッ素化……と言われても何だか分からないが、カタンに言えば高性能潤滑剤として知られるテフロン(というのにはデュボン社の登録商標だが)を含有しているということ。つまり化学合成潤滑剤というわけだ。

同様の製品は他にもあるが、その多くは個体潤滑剤を液体に拡散させて製品化している。しかしオスモシルはこれを液体の状態を利用して



指先に軽く吹き付けてみると、粘度は低くサラサラした印象だ。ただ、溶液をウエスで拭き取っても、指先にはスベスベ感が残る。これがフッ素系潤滑成分の大きな特徴である。

さらにはフッ素化合物にはつや出し効果があるので、外装パーツや家電・キッチン家具の表面保護、つや出し、防汚作用まで期待できる。もちろんネジ部の緩めやワイヤー、リンクブッシュの潤滑、フロントフォークのインナーチューブの表面保護&オイルシールとの潤滑性向上、さらにドライブチエン(フッ素シール、シリルチエンとも)にも利用可能。潤滑剤なんてどれも同じ、と高をくくっていたらこの性能は理解できない。こだわりのメンテナンスを目指すなら、高性能ケミカルの実力を試してみたい。



指先に軽く吹き付けてみると、粘度は低くサラサラした印象だ。ただ、溶液をウエスで拭き取っても、指先にはスベスベ感が残る。これがフッ素系潤滑成分の大きな特徴である。

ボルト・ナットから外装パーツまで!? 時と場所を選ばず使えるマルチな潤滑剤。



スプレーノズルは細い金属製で、逆さ噴きも可能なので狭い場所での作業性も良い。しかしノズル径が細いことで、スプレーの「切れ」が若干悪いという面もある(漏れ出し量は僅か)。フッ素化不活性液体は揮発性が極めて低いため、塗布した部分の潤滑皮膜が長持ちするのもオスモシルの特徴だ。容量300mlで2100円(税込)。



取材協力/ニューテックジャパン Phone 045-628-2055 <http://www.nutec-japan.com>